

2019年5月9日 校長 高倉 満

## 人権教育を基盤にした「力のある学校」へ

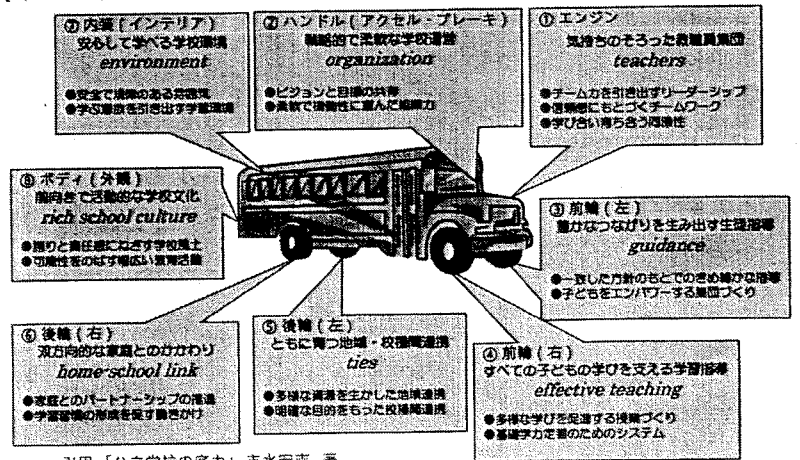
校長会研修から

「効果のある学校」に関する研究では、「教育的に不利な環境の下にある児童生徒の学力水準を押し上げている学校」において、学力の向上と人権感覚の育成とが併せて追及されている点に注目しており、人権感覚の育成は、児童生徒の自主性や社会性などの人格的な発達を促進するばかりでなく、学校の役割の大事な部分を占める学力形成においても成果を上げているとの指摘を行っています。

大阪大学の志水宏吉教授は、このような

「効果のある学校」に関する研究を踏まえた上で、その学校に通うすべての子どもたちをエンパワーする学校、すなわち、子どもたちが自信をもって学校生活を送り、本来持っているポテンシャルを十二分に発揮させることに成功している学校を「力のある学校」とし、「力のある学校」が備えるべき要素を以下の8つにまとめ、スクールバスのイメージで示しています。浮羽中はいくつの要素を備えているでしょうか。

【力のある学校のスクールバスモデル】



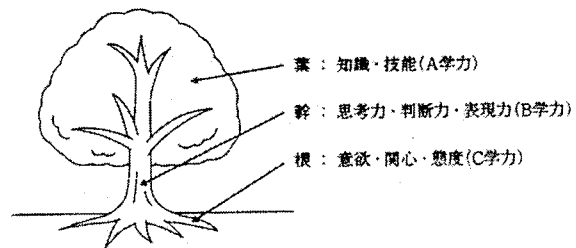
引用「公立学校の底力」志水宏吉 著

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| ① 気持ちのそろった教職員集団    | ② 戦略的で柔軟な学校運営        |
| ③ 豊かなつながりを生み出す生徒指導 | ④ すべての子どもの学びを支える学習指導 |
| ⑤ ともに育つ地域・校種間連携    | ⑥ 双方向的な家庭とのかかわり      |
| ⑦ 安心して学べる学校環境      | ⑧ 前向きで活動的な学校文化       |

また、学力の構造を「学力の樹」で捉え、葉・幹・根をそれぞれ「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「意欲・関心・態度」として表しています。学校全体における人権教育の推進については、教科指導、生徒指導、学級経営など、その活動の全体を通じて、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を一体となって取り組み、生徒一人ひとりが自分が大切にされていることを実感できる「力のある学校」の創造を目指していきましょう。

### 【学力の樹】

図のように、およそ樹というものは、「葉っぱ」と「幹・枝」と「根っこ」から成り立っていると考えることができる。その三者を、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」と「意欲・関心・態度」になぞらえてみようというのが、学力の樹のイメージである。



引用『「つながり格差」が学力格差を生む』志水宏吉 著

□10連休はいかかでしたか。大会や練習試合で先生方も休む暇も無い日々ではなかったでしょうか。体育祭練習が始まります。連休前に池田先生、秋山先生がグラウンドにポイントを打っていました。その事前の準備に感謝です。先生方も体調に気をつけて練習に頑張ってください。